

# 同盟教団とクリスチャン聖書教団(GPKAI)の協力 II

2020年 報告

## 序 清野宣教師派遣の経緯

1部 派遣宣教師清野とPLPと聖書学校

2部 派遣宣教師清野とソロ市の教会

3部 派遣宣教師清野とジャカルタ日本語教会(JJCF)

4部 派遣宣教師清野とドゥクー教会

5部 その他教団とクリスチャン聖書教団との直接協力



# 同盟教団とクリスチャン聖書教団(GPKAI)の協力

2020年 報告

序 清野宣教師派遣の経緯

4部 派遣宣教師清野とドゥクー教会

5部 その他教団とクリスチャン聖書教団との直接協力



## 清野宣教師の召命

1972年8月東部ジャワ州のバニュワギ村の小さな教会を訪問しました。8年後その時そこに居たクリスチャンに出会いました。日本軍に息子を殺された村人から『日本人は残虐だ』と叫びつけられました。その言葉が宣教師になる決断となりました。



## 歴史の負い目を担おうと

加害者は忘れても被害者は忘れない、  
戦争の加害者としての負い目をいかに支払うか  
戦後30年代に生きる、日本人キリスト者として、いかに生きるべきか、

ロマ 1:14-16 私は、ギリシヤ人にも未開人にも、知識のある人にも知識のない人にも、返さなければならない負債を負っています。ですから、私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。

マタイ 5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

戦後30年代に生きる、日本人キリスト者として、  
アジアに行って、人々に仕えること、これが主からの召しでした。

5年間奉仕した安城教会からTEAM本部で研修を受け、1年間の教会巡回を経て、お世話になっていた中野教会において派遣式がありました。

# 清野宣教師家族 派遣式 1976年10月



裕子

聖実(2歳) 香織(3歳)

勝男子

清野宣教師家族インドネシア派遣 1976年10月13日 羽田空港  
安藤仲市師、岡村又男師や大勢の家族や友人たちに派遣されました。



**ドゥクー村への道 1979年3月**  
神様は御業を行おうと、  
私たち家族を、中部ジャワのソロ市とドゥクー村へ遣しました。



## 主が備えた脚 トヨタ・ハイラックスのトラック

神様はソロから18キロ離れたドゥクー村開拓のために、  
同盟教団の献金を奇跡的に用いて一台のトラックを備えてくれました。



# ドゥクー村開拓 1979年2月

## ドゥクー村は750世帯の小さな村

ジャワ人の神学生と村に入り、教会学校に集まった子どもたちに教える。





私たち家族は、毎週村に行きました。神様は子供たちを呼び集めて下さいました。

若い伝道者が親戚を手づるに入村、C.Sと家庭集会を始めました。半年後に、私はその働きを引き継ぎました。



子供たちはすぐに国籍や文化を超えるようです。



## 神様の不思議な御業

また素朴な農夫やその家族を  
呼び寄せてくださいました。



石油ランプの明かりを囲んだ家庭集会がはじまりました。やがて、一人の高校生を含む農夫や妻たち10名が信仰の決断をしました



日本人が来てキリスト教布教をしている、と宗教省に密告があり、役人が調査に来るとの情報がありました。インドネシアでは宗教選択の自由は在りましたが、他教徒への布教は禁止ですから、どうしようか相談しました。

『じゃみんなを受洗して、  
クリスチャンになってしまおう』



## 第1回洗礼式 1979年7月22日

ということで洗礼式となりました。村の洗礼式は避けて、ソロ市のFish 宣教師宅のFish Pond(水槽)で、10名の洗礼式を行いました。



## 婦人たちの洗礼

さすがに、生まれて初めてのことで、緊張したようです。



## 高校生 スドモの受洗

その後献身して、  
神学校に進学、

土浦めぐみ教会の  
支援(毎月5千円)を  
受けて、  
神学大学を卒業

ドゥクー教会の牧師  
となりました。



## インドネシア独立記念式典 1997年8月17日

歴史の負い目を感じていた私も、独立をお祝いしたい、と申しでました。すると町内対抗清掃競争の勝者に景品(鍋釜)を奉げて欲しいと言われ、それを用意しました。記念式典には村中の人が集まりました。



## 村の独立記念式典

実は1週間前、村長さんから招待状が届きました。8月17日夜式典に行くと、演台の上に席が用意されていて、村長さんと一緒に座ることになったのです。

着帽している人が  
村長さん



## 歴史を支配する神様の奇跡

しかも村長さんは、景品を手渡ししながら、これは日本人Bapak Seinoが用意してくれたものだと紹介されたのです。私は一躍有名になってしまいました。



## ブガワン・ソロ(偉大な川)の洗礼式 1979年10月28日

独立記念式典がきっかけに、村の有力者たち集会に出席するようになりました。そして11名がクリスチャンになり、イスラムの村で歴史上初めて、村を流れるブガワン・ソロで洗礼を受けました。村役人チプトさんの受洗



## ドゥカー第2回目の洗礼式で受洗した11名 1979年10月28日

左から 村助役チプト氏、

小学校教師ギヨノ夫妻、精米所を持つ金持ち夫婦等、

右から 小学校教師アヌン氏、カリヨ爺様、水役人パデモ氏等の村の有力者たち



## 水曜日夜の家庭集会

村の有力者たちがクリスチャンに成り、信徒に対する様々な嫌がらせが無くなりました。村役人チプトさんのリーダーシップによって、大勢が石油ランプの下で遅くまで家庭集会を楽しみました。



**主日礼拝 11:00-12:00**

後ろの屋根の低い家に集まりました。



ジャワは熱帯、そこはまるでサウナの中の暑さでした。  
高い天井の教会堂建築の願いが起こりました。



## 教会堂建築開始

1979年11月 TEAM宣教団から借金をして、建築をはじめました。  
村長を迎えて、定礎式をしました。



みんなが協力しました。  
カリヨ爺様と村役員のチ  
プトさんも頑張りました。



清野もチプトさんと試みました。のこぎりは動きませんでした。  
見ている人はみんなが笑いました。



教会員みんなが奉仕しました。



## 教会堂完成1979年12月

ドウクーの村に十字架を掲げる教会堂が出来ました。電気も水道も、勿論LPGありません。しかしレンガ造りの高い屋根の立派な教会堂です。



## ドゥクー教会最初のクリスマス

1979年の12月、アントニー師と村長夫妻を招いて、  
献堂式とクリスマスを祝いました。



## 村始まって以来のクリスマス

その夜は発電機を借りて蛍光灯を付けました。  
会堂内は教会員や招待客で満杯でした。



外もいっぱいでした。幸いに窓ガラスはまだでした。



## 献堂式後

高い屋根の会堂内は涼しく快適でした。それ以上に、政府公認の教会堂  
ですので、自由に主を賛美し、映画会でも何でも自由に出来ました。



JOCS派遣のワーカー小林栄養士が協力して、ドゥクー村で栄養失調の子供たちに給食をしてくれました。



## 給食活動

子供達は母乳を飲む期間は良いのですが、貧しい家庭では、離乳食期に蛋白栄養不足になってしまふのです。そこで水曜日と土曜日に給食をしました。自産自給の野菜で、安価な給食にしました。



## 村人の健康改善 (地域開発事業)

子供たちの健康状態は、毎月、  
天秤ばかりで、正確に計量して、  
記録されました。

これで離乳食期の子供達の  
栄養状態は  
著しく改善されました。

この活動は、ドゥクー村のある  
スコハルジョ郡から  
表彰されました。



**続く洗礼式**  
ブガワンソロ川での  
洗礼式は繰り返し  
おこなわれました。



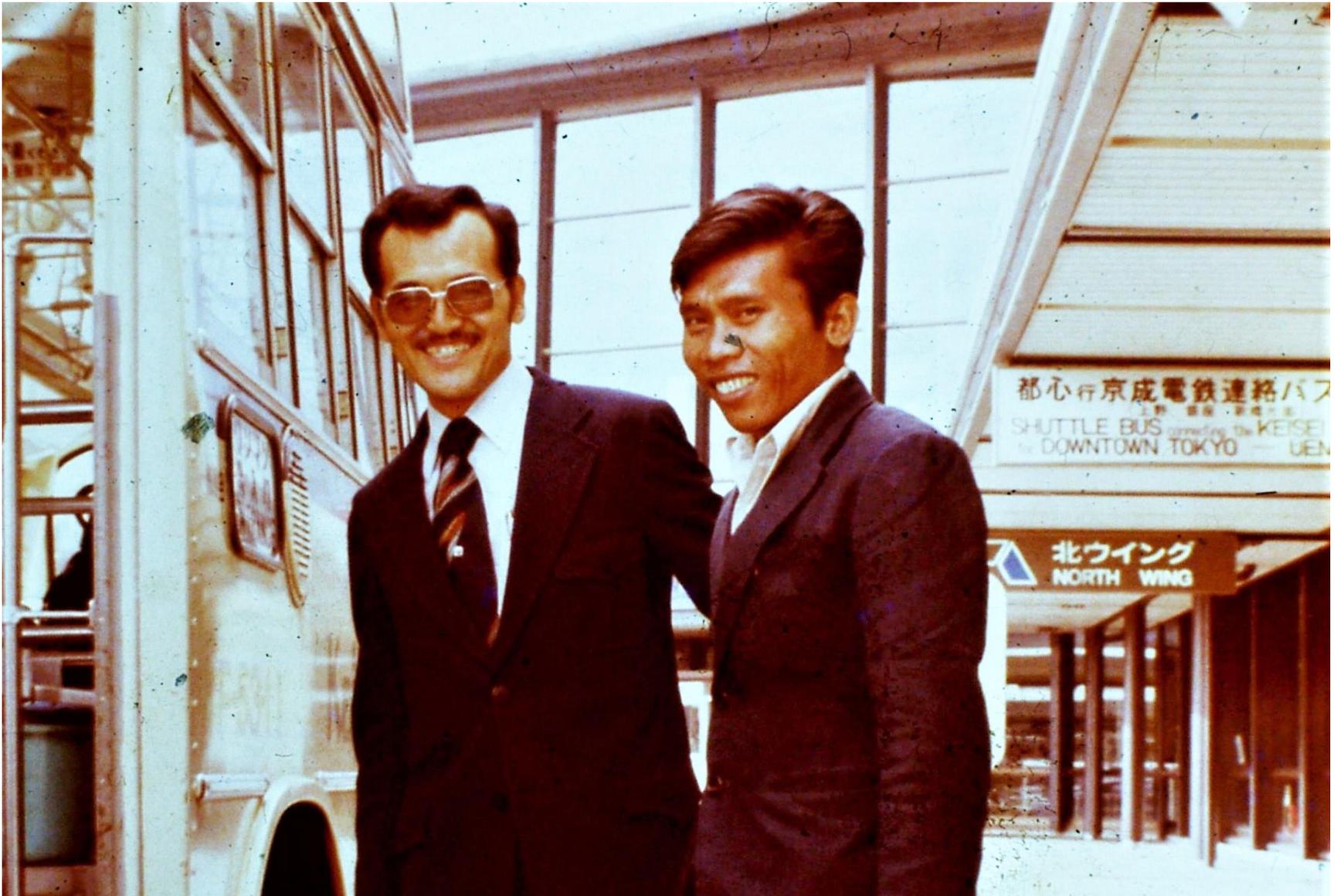
(上)夫人方の受洗と  
(左)チプト夫人の受洗を  
見守るサントソ

朝岡師と折戸師の訪問 1981年8月  
外国からもたくさんのお客様が来てくれました。



## ギョノ(Giyono)来日

ドゥクー教会を代表して、ギョノが同盟教団の招待を受けて記念大会に参加しました。



# 同盟教団創立90周年記念大会 天城山荘



ギョノはドゥクー村の神様の業を証しました。



## ギヨノの同盟教団訪問

二人でいろいろな教会を  
訪問しました。  
ユーモラスなギヨノは  
何処に行っても  
愛されました。



土浦めぐみ教会では、  
朝岡ご夫妻に会いました。  
そして一緒に天城山荘の  
同盟90周年大会に参加し  
ました。

その後スドモ神学生は神学大学を卒業して牧師となって戻って来てくれました。  
ドゥクー教会はスドモ牧師を中心に増々成長を続けました。



婦人会は制服をそろえて、クリスマスをお祝いしました。





同盟の教会から多くの  
訪問団が行きました。

左は土浦めぐみ教会保育士たち  
下左は同盟教団サマーワーカー  
下右は土浦めぐみ教会訪問団



## 清野家族の10年間(1976-1986)

清野夫妻はすっかりジャワの人になりましたが、ナショナリズムが強くなり外国人宣教師は10年以上の宣教活動が難しくなりました、またストモが神学校を卒業してドゥクー教会牧師に着任したので、1986年6月に離任しました。

幼稚園児だった娘二人は、背後のクリスマス・カードにあるように、祈られて大きく成長しました。





## スドモ牧師家族

二人は元気に忠実な奉仕を続けました。3人の子供に恵まれて、さらに熱心に奉仕しています。

## スドモ・ヤユック牧師夫妻

Sudomoは裕子さんのCSの教え子Yayuk と結婚し、二人は素晴らしい牧師夫妻になりました。  
スドモの献身とそれを支えためぐみ教会の支援がドゥクー教会の発展の土台となりました。



# ドゥクー教会における信仰の継承

ドゥクー教会では、  
初期受洗者の家族(子や孫)みんなが、  
教会に繋がっています。



## 現在ドゥクー教会の現状

現住倍餐会員145名

在外会員22名、

召天会員28名。

現在の役員は全員

ストモ牧師が洗礼を

授けた第2世代でした。

2019年の創立記念日には、

同盟教団めぐみ教会から

御祝い金を持参しました。



# ドゥクー教会訪問 2019年7月19日

## ギヨノ宅 家庭集会

いつ行っても、和やかな神の家族の笑い声が夜遅くまで続きます。

ピリピ1:3 私は、あなたがたのことを思うごとに私の神に感謝し、あなたがたすべてのために祈るごとに、いつも喜びをもって祈り、あなたがたが最初の日から今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝しています。



## 家庭集会の驚きの喜び 2019年7月19日

サントソとストウリ(右)との再会。かつて二人は集会中に、私の車をパンクさせる悪戯をした後で回心し、青年会のリーダーになりました。

サントソ(左) 現在スマトラ島で開拓村のリーダーであるサントソは、かつて学んだ以下の聖句に励まされて、クリスチャンとして輝いています。

マタイ7:13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。





**ドゥクー教会40年の変遷**  
**家庭集会から教会堂へ、**





人を救い、群れを育てる  
神様の不思議な御業



# 2015年7月3日 ドゥクー教会創立36周年記念集会

ドゥクー教会は、最初の洗礼式の1979年7月22日を創立記念日として祝ってきました。2016年教会は古い礼拝堂の後ろに、収容人数200名の大きな礼拝堂を建築しました。



2019年7月21日

## ドゥクー教会創立40周年記念集会

2019年ドゥクー教会は創立40年を祝いました。  
200名以上の神の民が喜びの賛美を捧げました。

ピリピ1:4 あなたがたすべてのために祈るごとに、いつも喜びをもって祈り、1:5 あなたがたが、最初の日から今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝しています。1:6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日に来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。



## ドゥクー教会 創立40周年記念集会

インドネシア中部ジャワのdukuh村には、同盟教団が派遣した宣教師を用いて、神が建て上げ、育てている、神の教会が輝いています。栄光が主にあるように。



## 5部 その他同盟教団とクリスチャン聖書教団との直接協力

この他、松原湖研修に来た教職たちやTCUに留学していた家族などがあります。またジャワを訪問してくれた者もサマーワーカー達、複数の理事、山口宣教師たちもいます。

同盟教団が推進して来た宣教協力の記録を追加してくれたら、教団の前進にとって、嬉しい記録となるでしょう。

写真は2020年1月、吉持日輪生国外宣教委員長とヒムチャン師と、かつて同盟教団を訪問したGPKAI理事たちの写真

